

Episode

岐阜VAMOSを飛び立ってから、Jリーグのプロ選手となり、オリンピック候補や日本代表候補と数々の偉業を成し遂げて、今年引退したプロ選手として16年の幕を閉じた愛知県一宮市出身の青山直晃(35歳)が今VAMOSの中学生、小学生選手に混ざって一緒に汗を流してくれている。



直晃から本人のサッカーの歴史を聞いてみました。

愛知県一宮市立丹陽小の2年から週1回の土曜日のサッカースクールからがサッカーのスタートとなる。

一宮でありながら当時、全国大会に出場して優勝、準優勝して結果を出している強豪の岐阜VAMOSにチャレンジするぞと仲間の5人がVAMOSのセレクションを受けに来てくれた。

5人とも元気があり、やる気満々でプレーしてくれたことを思い出す。

特に青山は、身体能力の素晴らしさと素直な気持ちでプレーに取り組む姿が素晴らしく、辛いことでも嫌な顔をしないで食欲にプレーをしていた。

そして、どんどん成長して、2年生からDFのセンターとしてレギュラーポジションを取り、3年はキャプテンとしてディフェンスの要としてチームを引っ張る存在となる。

クラブ選手権の東海大会は準優勝、全国大会は、1次リーグ、東京ヴェルディ、清水エスパルスのグループを2位通過し、決勝トーナメントに進みFC東京に敗れたもののベスト16の結果を出した。

そして、メニコンカップにVAMOSから青山、津田(FW)、水崎(GK)と3人が出場して、青山は敢闘賞に選ばれた。

12月に行われた高円宮全国大会では、丸亀会場にて1回戦小倉南に勝利して準々決勝の横浜マリノス追浜に延長の末0-1で敗れ、ベスト8に終わる。

鹿島アントラーズと前橋育英高校から声がかかり、特待選手として前橋育英に進学する。

2年生の時に全国選手権大会に出場。

3年生の時は、キャプテンとなりインターハイに出場して上位の成績を残した。

その後のプロ生活は、

清水エスパルス-6年間-

オリンピック代表候補、日本代表候補(監督オシム)、天皇杯準優勝

横浜F・マリノス-2年間-

中澤佑二、中村俊輔、木村和司とプレーする。

ヴァンフォーレ甲府-2年間-

ムアントン・ユナイテッドFC(タイ)-4年間-

タイのプレミアリーグ(トップ)優勝、ACLチャンピオンズリーグに参加する。



次のチームとして海外の他国からのオファーがあったのだが、イニエスタと試合がしたいという気持ちから、Jリーグ復帰を決意しガンバ大阪へ。

ガンバ大阪-1年間-

タイとJリーグのサッカーの違いに悶々としてカップ戦出場に終わる。

鹿児島ユナイテッドFC-1年間-

最後は身体の故障にプレーが戻らなかった。

これが、青山直晃のサッカーの歩みです。

小学2年生から27年間、プロ選手としては、16年よく頑張りました。

VAMOSから育った自慢できる選手の一人です。



中央後方にいます

Shoji Inoue